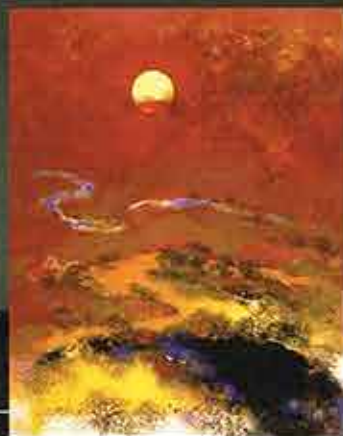


湿原に創る無限の美宇宙

油絵・水彩・デッサン・魚拓等、約600点を収蔵。
油絵常設展示室と企画展示室を併設。

詩人リルケならば<世界の尽きる果て>というのだろうか。天は無限に高く地はどこまでも広く、なんの形もなく、ただあるのは枯葦の密生と水びたしのツンドラだけ……。『こんな自然がどうして造形の対象になるものか……』と、自らに問い模索しながら、画家は幻の魚を追いかける釣人のように、湿原の奥深く、いく年もさまよひ続けた。そしてついに……。湿原のなかに脈々とした実存を画家は探り当てたのだ。その実存は、『見たとおりに描くものでなく見えるように描かれる……』美意識のなかで、詩的な宇宙によみがえろうとしたのである。



釧路湿原
F30 1987



湿原の沼(暮色)
162cm×225cm 1980

湿原の春は芽吹き、冬の眠りを覚ます。
谷地坊主は黄緑色となり、野鳥もさえずる。
しかし人々は、枯葦の林と青黒い沼の水に吸い込まれ、孤独となるのだ。



鶴眠る(夜の湿原)
195cm×195cm 1985~1990

青、黒、赤、そして白。
地平線をとりはずした無限のひろがり。
恐ろしいほどの大自然の中に、実存している「命」がそこにある。

湿原のニンフ(精)たち
195cm×195cm 1979

幼くして失った愛娘を、この世のものとは思えない美しい人魚として復活させた。
その肌は照らす月よりも白く、サビタの花に囲まれていっそう浮かびあがる。
いつまでも寂しくないよう絵の中にお友達をつくり、以来、描くのをやめた。



落日のフローラ
M50 1978

太平洋戦争の空襲で亡くした娘をキャンパスの中で成長させた。
その名を、ローマ神話の花と春と豊稔の女神「フローラ」とした。



湿原のドンキホーテ
F100 1974

まさに自画像である。
ドンキホーテとサンチョパンサは、北斗七星のきらめく赤い空の下、かすかすに見える花と水面のなかにいる。



湿原の漁夫たち
F100 1976

鮭の捕獲場である。
生々しい鮭と可憐なサビタの花。さらに男達と女の子の対比が興味深い。

北国の釣り師
F20 1978

ロシア製毛皮の帽子に真っ赤なウールのショール。
自作の竹竿とタイコリール。
違った材質の感覚表現に注目。



湿原の魚(イトウ)
F30 1984

金環に巻かれた輝く瞳孔。黄金の肌に黒の斑、幻の大魚イトウ。
その湿原の主にも一抹の哀愁が感じられる。





NPO法人
佐々木榮松記念

釧路湿原美術館

KUSHIRO SHITSUGEN ART MUSEUM



美術館全景

道東の大自然を描き、阿寒・知床・釧路湿原国立公園のPRにも携わった、佐々木榮松画伯の作品と資料・遺品を常設展示。

阿寒国際ツルセンターに隣接している為、年間を通してタンチョウ鶴を観察できます。

- 年中無休
- 開館時間 10:00~17:00
(入館は16:00まで)
- 入場料

大人	500円
高・大学生	300円
小・中学生(父母同伴)	無料
- 団体割引(10名以上)

大人	400円
高・大学生	200円
小・中学生	100円

アクセス

釧路空港から車で約15分
(東京・札幌より直行便あり)



NPO法人 佐々木 榮松記念 釧路湿原美術館

〒085-0245 釧路市阿寒町上阿寒23-38 TEL&FAX 0154-66-1117
E-mail shitugen946A.M@bz04.plala.or.jp URL <http://www12.plala.or.jp/kushiro/>



著書

【画集等】油絵作品集 / 湿原の油絵 / 絵と文のデッサン集 / 観光ポスター集 / 魚拓集 【随筆】あゝのころ / 白いオビラメ (原野の釣り人物語) 【旅行記】ソビエトの旅 / ヨーロッパ美術の旅 / インカの国のデッサン 【釣りの書】道東の釣り / 改訂道東の釣り / きたの釣り / 湿原のカムイ

佐々木榮松(ささき えいしょう) 略歴

- 1913 (大正2) 年 北海道生まれ。
北国の原野で育ったため、絵は完全に独学。
幼少より石版印刷会社(リトグラフ専門の印刷)で生活した。水彩・デザイン・石版画・グラフィックデザインなど何でも手掛けた。
特に油絵を本命とし、道東の風土をテーマの根底におきながら、一貫して心象作品を制作。
- 1963年(50歳代)からは、専ら美術館の見学・取材・釣りなどの目的で、ソビエト連邦諸国、中近東、地中海諸国、西欧、北欧、北米、中南米、南米諸国を旅する。
- 1973年(60歳代)からは作品展(個展)を主とし、東京銀座文芸春秋画廊・望月画廊・横浜・札幌・釧路で開催。
- 1983年(70歳代)JR北海道釧路支社に、佐々木榮松美術作品収蔵の美術館として「釧路ステーション画廊」開催。
- 1993年(80歳代)「釧路ステーション画廊」で各種企画展を開催。
- 2003年(90歳代)東京・ロイヤルサロン銀座で3年間個展開催。
- 2009年「釧路ステーション画廊」開催。
- 2011年 北海道立釧路芸術館、厚岸町情報館、釧路佐藤紙店、南大通りギャラリー等で9回個展を開催。
- 2012年1月11日 満98歳で亡くなる。